

# 教師の支援のもと児童が創出する評価規準・評価基準表を利用した 学習環境の開発と授業実践

授業実践者 金子英生

## 1 学年

小学校6年生

## 2 単元名

「見つめよう・調べよう・わたしたちの戸田村」 (全39時間)

## 3 単元の目標

- ・児童自らが地域に関わる問題を設定し、問題を解決するための計画を立て、追究し、まとめる活動を通して、問題についての自分の思いや考えを深くもつとともに問題解決の力を高める。

## 4 単元の構想

### 4.1 単元設定の理由

戸田村は、現在、約4500人の人口である。昭和35年5900名をピークに年々人口は、減少の一途をたどっている。若い世代を中心に村から出て行く人が多く、高齢化が進んでいる。それと同時に子供の数も減ってきている。

子供たちは、豊かな自然に囲まれた戸田村で育ち、その恵まれた環境から「自然が豊かで住みよい。戸田村が大好き」といった捉え方で低学年の時には村を見ていた。しかし、学年が進むにつれ、村と近隣の市や町と比較したり、修学旅行の経験から東京と比較したりして、他地域への憧れを抱いている子供が増えている。

そこで、いったん外に向けた眼をふるさとに移し、村を見つめ直し、地域の観光や漁業、施設などに携わる人々の生き方に触れたり、豊かな自然や地域の歴史に触れることで、地域の再発見をさせていきたい。そして、地域に対する愛着や誇りをより深くし、地域についての児童の考え方をより高めていきたい。

### 4.2 児童の実態と単元の構想

6年生は、学年1学級で児童数29名である。

今までの総合的な学習の時間の活動では、グループでテーマを設定し調べていく活動が主であった。グループによる活動では、他者に頼り自分から進んで問題解決にあたらなかったりする児童も見られた。そこで、個人個人でテーマを設定し、自分で責任を持って問題解決にあたっていく経験をさせることで、一人一人の問題解決能力をさらに高めていきたい。

そのために、本実践では、問題解決能力の育成を目指し、児童が児童自身の問題解決や学び方を自己評価し改善していく学習を構成する。また、児童の自己評価を促す手立てとして、

ポートフォリオや他者評価を取り入れる。

現在、総合的な学習の時間をはじめとして、ポートフォリオを用いた学習が広く実践されている。ポートフォリオを用いた学習では、評価規準や評価基準表をもとに児童の学習過程の評価が行われる。それらの実践の多くは、教師の側で評価したいことを、評価規準や評価基準表として設定し、それを使って子どもに自己評価させ、学習の改善を行わせている。これでは、教師が児童を評価するための自己評価であり、一人一人の子どもの自己評価は主体的なものではなく、切実な学びとして学習が意識されていない。この自己評価観を児童のためのものに転換していく必要がある。

そこで、児童が、各自の学習の目標を決め、自ら評価規準として設定し、さらに、児童がそれをもとに評価基準表を作る。その評価規準・評価基準表を児童が学習場面で利用し、自らの問題解決や学び方を自己評価し、他者評価を得て、改善しながら学習を進めていくポートフォリオとする。このように自らが評価規準や評価基準表を設定し、自己評価していくことで、児童一人一人の最近接に働きかけ、児童一人一人の学習の向上を促すことができると考える。また、自ら評価規準や評価基準表を設定し、自己評価しながら学習を進めていくことは、生涯に渡って学習していく力につながると考える。しかし、今まで教師から与えられるだけの自己評価しか経験していない児童にとって、自分自身の評価規準や評価基準表が創出できるようになるためには、段階が必要である。そこで、「教師の支援により児童が評価規準・評価基準表を創出する段階」を経て、「児童が、独力で評価規準・評価基準表を創出する段階」へと高めていく。

本実践では、「教師の支援により児童が評価規準・評価基準表を創出する段階」における支援の工夫をしていく。

そして、ポートフォリオを用いた学習を支援するため、コンピュータ利用のメリットを活かし、自己評価機能や学習情報入力機能、学習情報抽出機能、ポートフォリオ編集機能、コミュニケーション機能、閲覧機能を装備した電子ポートフォリオシステムを開発し、活用する。

#### 4. 3 教師の支援のもと児童が評価規準・評価基準表を創出する手順

ポートフォリオを用いた学習は、学びの過程を長期的に評価していくが、その過程における評価のためには評価規準・評価基準表が重要となる。

評価規準・評価基準表には多くのとらえ方があるが、本実践で、「評価規準」とは、何を評価するのかという判断の根拠で、学習で児童が目指す姿のことである。なお、評価規準は、単元の目標から評価の観点に沿って設定する。「評価基準表」とは、どの程度であるかという判断の根拠で、評価規準がどの程度達成できたか判断したり、評価規準の達成を目指して次にやるべきことを判断したりするために、評価規準の達成度をレベル分けして示した表である。評価規準・評価基準表の関係を図4. 3-1に示す。

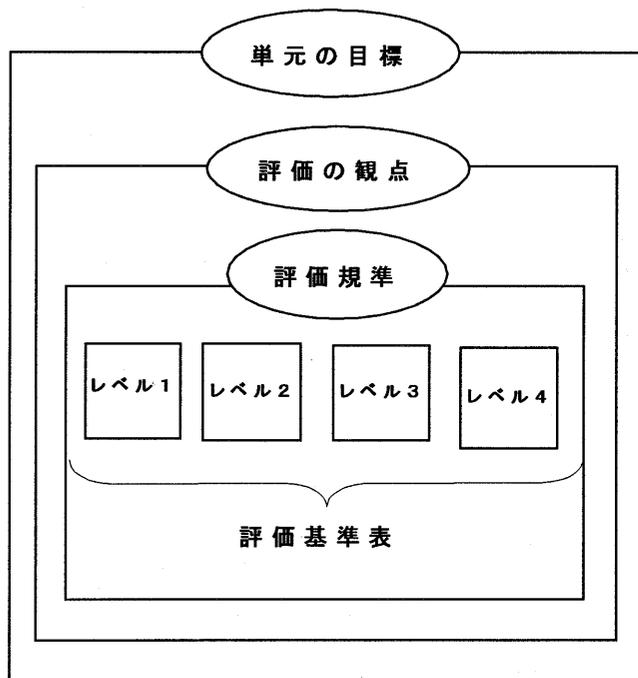


図4. 3-1 評価規準と評価基準表の関係

本実践では、児童は図4. 3-2に示す①から⑦の流れによって、評価規準を創出し、個々の評価基準表を作成していくことになるが、①から⑤の評価規準の作成までは勝見健史(2002)と同様の手法を採用する。以下、児童による評価基準表創出までの手順を示す。

①反省点の明確化

児童は1学期の自分の学習を振り返り、うまくいかなかったこと等の反省点をあげてワークシートに記し明確化する。その後、相互に発表し合い共有する。

②評価の観点による分類

児童のあげた反省点を、教師が評価の観点にそって分類し、一覧にする。

③目標設定

児童は共有された一覧を確認して自分の課題をつかむことで、今回の学習における目標を明確にする。そして、「今までの学習における自分の姿」と「今回の学習で目指す自分の姿」をワークシートに記す。この目標は一人ひとりの評価規準作成の素案になるものである。この時、児童に「今までの学習における自分の姿」と「今回の学習で目指す自分の姿」を把握させるとともに、評価基準表を活用して学習し自分自身を変えていくことへの意識化を図る。

④評価規準の作成

児童が今回の学習で目指したい自分の姿を具体的にはっきりとさせ、評価規準を設定する。

### ⑤評価規準の確認・修正

教師は児童の設定した評価規準が、達成が容易な目標や達成不可能な目標にならないように留意しながら学習活動にあったものになるよう支援する。また、振り返りにおける利用を考慮しながら表現が適切であるかどうか、具体的に記述できているかどうか等についても、児童と教師の対話の中で修正していく。そして、児童が自分自身で確認して納得するという活動を通して、評価規準として確定する。

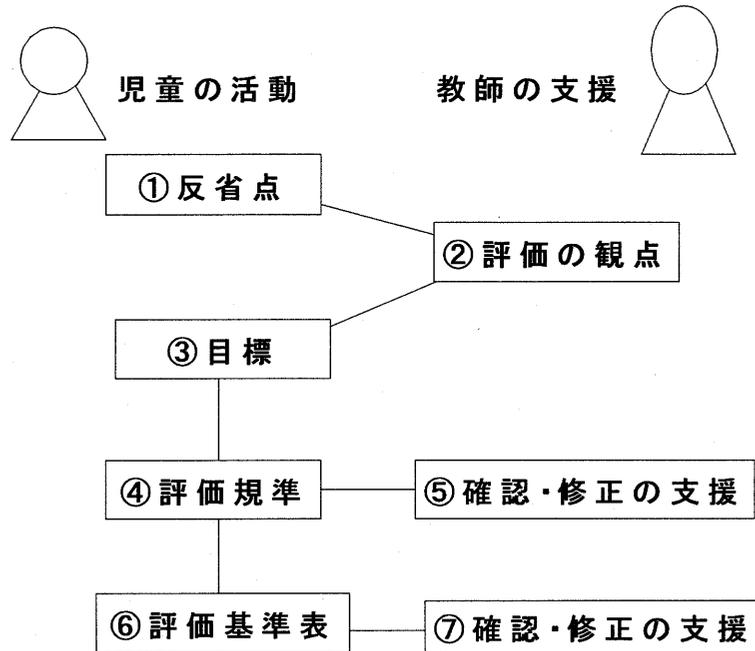


図4. 3-2 評価規準・評価基準表創出の流れ

### ⑥評価基準表の作成

③の目標設定時に明確にした「今までの学習における自分の姿」と「今回の学習で目指す自分の姿」を評価基準表の現在の姿(レベル1)と目指す姿(レベル4)として設定し、評価基準表の例を参考にしながら、さらにその中間の姿(レベル2・3)を考えることで数段のレベルを有する評価基準表を作成する。

### ⑦評価基準表の確認・修正

教師は児童が設定した個々の評価基準表について、各段階の表現が適切であるかどうか、もとの評価規準に合ったものになっているかどうか確認する。修正が必要な場合には、児童と教師の対話の中で修正していく。そして、児童が納得した上で評価基準表として確定する。

単元の終わりの段階では、児童の設定した各評価基準表における現在のレベルが明らかになり、次の単元の学習での評価規準や評価基準表を設定する参考資料となる。

#### 4.4 学習の流れ

学習は、図4.4-1および図4.4-2に示すように「問題設定」「計画」「追究」「単元のまとめ」の大きく4つの段階で構成される。児童は、自ら創出した評価規準・評価基準表に基づいて自己評価しながら、学習ファイルに蓄積された学習情報からポートフォリオに必要な情報を判断し、選択・編集を行い、ポートフォリオ1を作成する。さらに、他の児童などから他者評価を得ることで、自己評価を深め、次の活動の手だてを得る。そして、ポートフォリオ1はポートフォリオ2へと再構成される。他者評価の場面で、他者は、学習者の評価規準・評価基準表や自己評価、学習ファイルを参照して、評価を行うことになる。これらの学習活動は、各段階において同様に行われる。

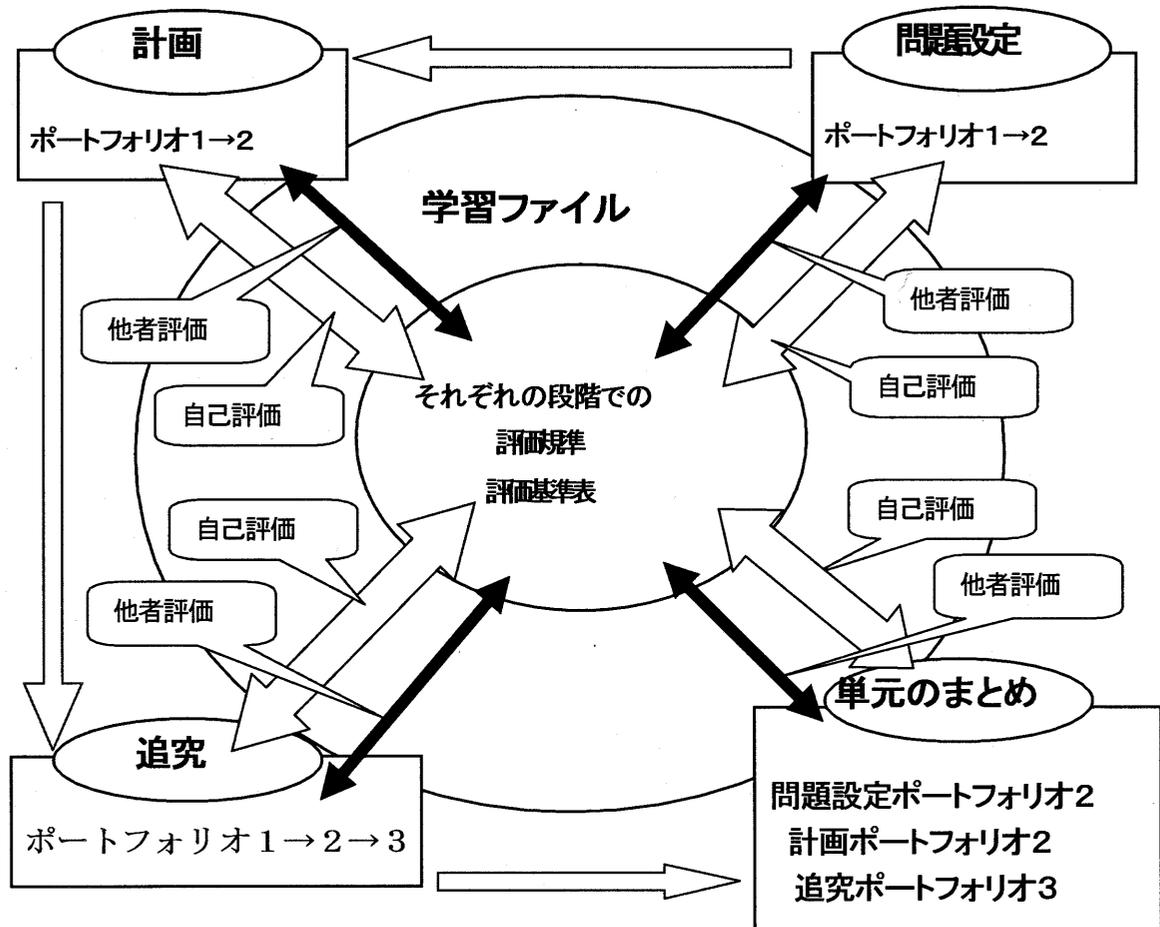


図4.4-1 評価と学習活動との関連

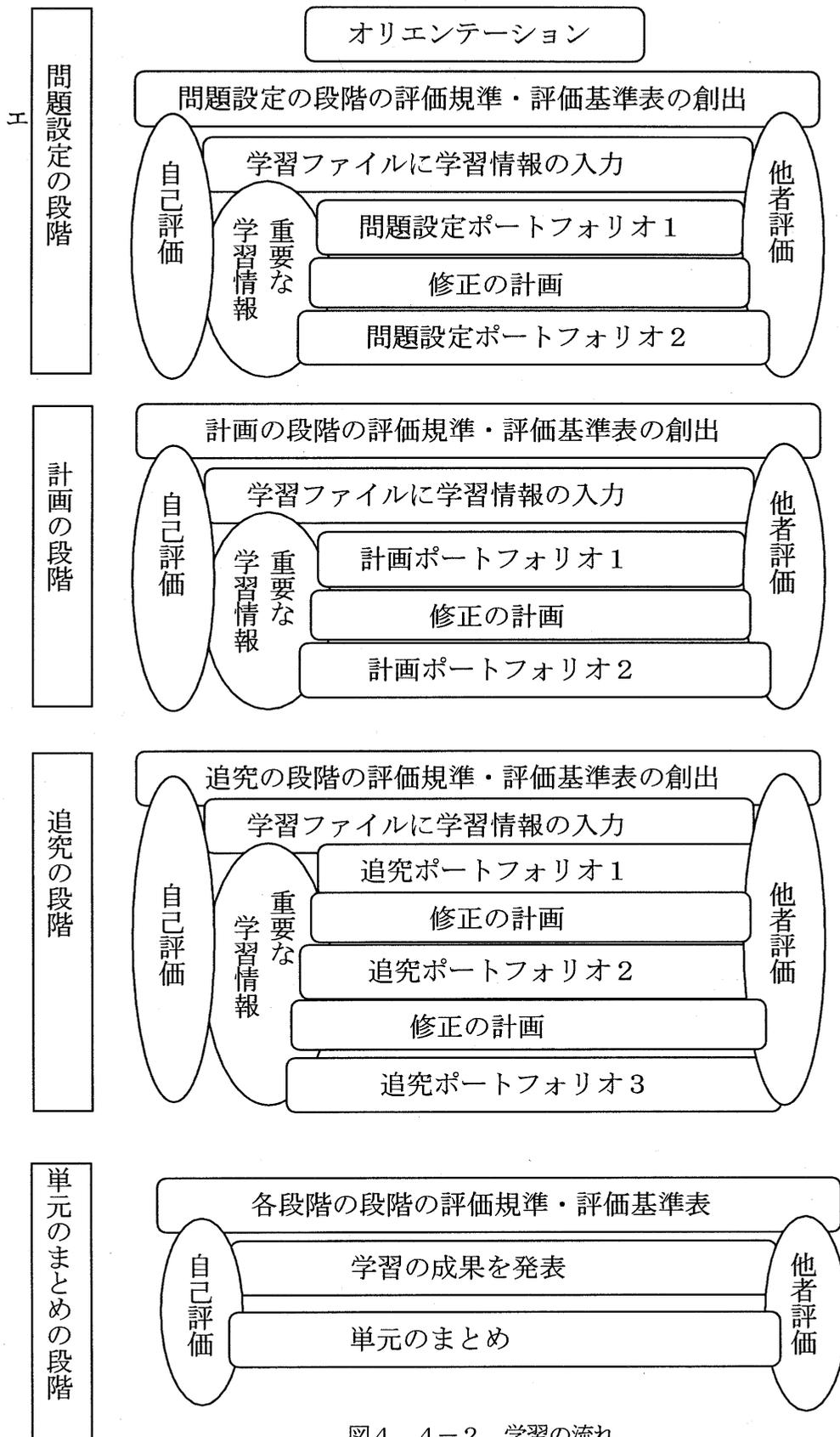


図4. 4-2 学習の流れ

児童個々の評価規準や評価基準表は、単元の最初に全て設定するのではなく、問題設定、計画、追究の各段階で、それぞれの段階における評価規準および評価基準表を創出する。そうすることで、児童は、より自分自身の学習過程に適合した評価規準や評価基準表を創出できると考える。

単元の学習指導案を表4. 4-1に示す。

表4. 4-1 学習指導案

単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童自らが意欲的に、地域に関わる問題を設定し、問題を解決するための計画を立て、追究し、まとめる活動を通して、問題についての自分の思いや考えを深くもつとともに問題解決の力を高める。</li> </ul>			
1 次  問 題 設 定  14 時 間	1次：問題設定段階の全体目標		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題設定段階における評価規準・評価基準表を創出し、自己評価を行いながら、地域に関する事物についての夢や願いをもとに追究したい問題を設定をする。</li> </ul>		
	時	学 習 活 動	教 師 の 支 援
	1	○オリエンテーションを行い、また、1学期の学習における反省点をあげる。	○プリントを用意し、評価規準や評価基準表を児童にもわかる言葉説明し、電子ポートフォリオシステムを取り入れた単元のおおまかな流れについて説明をする。
	2	○村を見つめ直し、村の特色となるものをあげる。前時にあげた反省点の一覧を見て目標を考える。	○村を見つめ直すために、自然・歴史・産業・施設・その他の5つの項目を設け、それぞれの項目で特色となるものを考えさせていく。前時に児童があげた反省点を一覧にし、用意する。
3	○問題設定段階における評価規準・評価基準表を創出する。	○一人一人の児童の考えた目標を具体化して評価規準にする手立てを考えておく。評価基準表について言葉がけによる支援を行う。	
4	○2時間目にあげた村の特色となるものからいくつかを選び、それぞれに対する自分の夢や願いを書き出す。学習ファイルに入力をする。	○実際のコンピュータ画面をプロジェクターで投影し、学習ファイルへの入力例を提示したり、実際の入力を演示したりする。児童が実際に入力していく場面では、T.Tで個別に指導にあたっていく。	

	時	学 習 活 動	教 師 の 支 援
1 次 問 題 設 定  14 時 間	5	○前時に選んだ村の特色ある素材の中から夢や願いの強いものをひとつ選び学習問題(研究テーマ)を考え、学習ファイルに入力する。	○システムの学習ファイルを見ながら、学習の振り返りをさせる。第2時や第4時の活動を振り返り、人にまどわされることなく、自分の夢や願いの強いものを学習問題として設定するように助言する。
	6	○前時に考えた学習問題について知っていることと知らないこと(知りたいこと)を書き出し、学習ファイルに入力する。	○漠然としている学習問題について、知っていることと知らないことを書き出させることで、学習問題の明確化を支援する。ワークシートのプリントを用意し、まず書き出させてから、学習ファイルに入力させる。
	7	○学習問題をはっきりさせるための見学や調査の計画を立て、学習ファイルに入力する。	○学習問題をはっきりさせるための見学や調査であることを明確に提示し、自分のための見学や調査の計画を立てさせる。
	8	○自分の立てた計画のもと、見学や調査を行う。	○安全面へも配慮から、見学や調査の場所が同じ人でグループを作り、いっしょに行動させる。
	9	○見学や調査を行った結果を学習ファイルに入力する。	○見学や調査でわかったことや新たに生じた疑問、考えたことなどを入力させる。画像の取り込みについて説明し、実際の操作についてとまどっている児童がいれば個別に支援する。
	10 11	○重要な学習情報を選び、問題設定ポートフォリオ1の下書きをし、システムに入力をする。評価規準・評価基準表を見て、ワークシートに自己評価を行う。	○ワークシートに、重要な学習情報を選んで書き入れ、ポートフォリオの下書きをさせる。重要な学習情報のしるしについて教え書き込みの支援をする。ポートフォリオの入力について説明をし、入力にとまどっている児童には個別に支援する。
	12	○前時に行った自己評価をシステムに入力する。問題設定ポートフォリオ1の他者評価を行う。	○システムの扱いに慣れていないので、システムの操作方法について支援をしていく。学習者のポートフォリオ画面や評価基準・評価基準表や自己評価を見ながら、評価しているか見ていく。

	時	学 習 活 動	教 師 の 支 援
問 題 設 定 14 時 間	13	○評価用紙を評価者から受け取り、それらをもとに、ポートフォリオ2への改善の計画を立て、学習ファイルに入力する。	○友達からきた評価用紙の中から、よいアドバイスを選ばせ、それらを取り入れて、ポートフォリオ2によりよく改善していくことをつかませる。 改善の計画を、学習ファイルに入力し、問題設定ポートフォリオ2の下書きをする。
	14	○前時にした改善の計画のもと、問題設定ポートフォリオ2を完成させ、自己評価をする。	○前時に書いた問題設定ポートフォリオ2の下書きを見直し、システムにポートフォリオ2を作成し、自己評価を行う。

2 次  計 画  8 時 間	2次：計画段階の全体目標 ・計画段階における評価規準・評価基準表を創出し、自己評価を行いながら、問題を追究するための計画を立てる。		
	時	学 習 活 動	教 師 の 支 援
	1	○計画段階における反省の一覧から目標を考え具体化して評価規準をつくる。	○今までの自分の姿と今回の学習で目指す自分の姿をとらえさせ、目標を明らかにさせる。児童の考えた目標を具体化し評価規準にするために言葉がけによる支援を行う。
	2	○評価規準から評価基準表を創出する。問題を解決するための計画を考え、学習ファイルに入力する。	○前時に児童が考えた計画段階での評価規準から評価基準表を創出させるための手立てを一人一人について考えておき、言葉がけによる支援を行う。
3	○自分の設定した問題を解決するための計画を考え、学習ファイルに入力する。	○前時に考えた計画とは、別の視点で解決のための計画を考えさせていく。	

	時	学 習 活 動	教 師 の 支 援
2 次 計 画  8 時 間	4	○重要な学習情報を選び、計画ポートフォリオ1の作成をする。評価規準・評価基準表を見て、自己評価を行いワークシートに書き込む。	○ワークシートに、重要な学習情報を選んで書き入れ、計画ポートフォリオ1の下書きをし、システムに入力をする。重要な学習情報のしるしについて教え、重要な学習情報にしるしをつける支援をする。入力にとまどっている児童には個別に支援する。
	5	○前時に行った自己評価をシステムに入力する。計画ポートフォリオ1の相互評価を行う。	○システムのコミュニケーション機能を使って、他者評価を行う。システムを使い方について説明をし、他者のポートフォリオなどを見ながら、評価したことを書き込んでいく。また、時々自分の掲示板に戻り、書き込みに対する返信を行わせる。
	6	○自分の掲示板に書かれている評価をもとに、ポートフォリオ2への改善の計画を立て、学習ファイルに入力し、ワークシートに計画ポートフォリオ2の下書きをする。	○掲示板に書かれている評価の中から、よいアドバイスを選ばせ、それらを取り入れて、ポートフォリオ2によりよく改善していくことをつかませる。 改善の計画を、学習ファイルに入力し、計画ポートフォリオ2の下書きをする。
	7	○前時にした改善の計画のもと、計画ポートフォリオ2を完成させ、自己評価をする。	○前時に書いた計画ポートフォリオ2の下書きを見直し、システムにポートフォリオ2を作成する。自己評価を行う。
	8	○ポートフォリオ2の他者評価を行う。	○追究に向けてのアドバイスを得るため、システムを使い、ポートフォリオ2の他者評価を行う。

3 次 追 究  14 時 間	3次：追究段階の全体目標 ・追究段階における評価規準・評価基準表を創出し、自己評価を行いながら、自ら立てた計画をもとに問題の追究を行う。		
	時	学 習 活 動	教 師 の 支 援
	1	○計画ポートフォリオ2の他者評価を見て、よいアドバイスをさがす。 追究段階における反省の一覧から目標を考え具体化して評価規準をつくる。	○追究活動を深めていくためのよいアドバイスはないか他者評価の振り返りをさせる。今までの自分の姿と今回の学習で目指す自分の姿をとらえさせ、目標を明らかにさせる。児童の考えた目標を具体化し評価規準にするために言葉がけによる支援を行う。
	2	○追究段階における評価規準・評価基準表を創出する。これからの追究活動の計画を立て、学習ファイルに入力する。	○前時に児童が考えた追究段階での評価規準から評価基準表を創出させるための手立てを一人一人について考えておき、言葉がけによる支援を行う。
	3 4	○自分の設定した問題を解決するための追究活動を行い、学習ファイルに入力する。	○施設の見学などに児童が行く場合には、事前指導をし、児童にお願いに行かせる。見学先とは事前に教師の側でもお願いをし、打ち合わせを行う。
	5	○重要な学習情報を選び、追究ポートフォリオ1を作成する。評価規準・評価基準表を見て、自己評価を行いシステムに入力する。	○重要な学習情報を選んでシステムの重要なしるしに書き入れ、追究ポートフォリオ1をシステムに入力させる。評価規準や評価基準表を見て自己評価させる。
	6	○前時に行った自己評価をシステムに入力する。追究ポートフォリオ1の他者評価を行う。	○システムのコミュニケーション機能を使い他者評価を行う。他者のポートフォリオや評価規準・評価基準表などを見ながら、評価したことを書き込みさせていく。時々自分の掲示板に戻り、書き込みに対する返信を行わせる。
	7	○自分の掲示板に書かれている評価をもとに、ポートフォリオ2への改善の計画を立て、追究活動を行う。	○掲示板に書かれている評価の中から、よいアドバイスを選ばせ、それらを取り入れて、ポートフォリオ2によりよく改善していくことをつかませる。 改善の計画は、学習ファイルに入力させる。

